10．九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	－	－
	やや良くなる	商店街（代表者）	・現在の客の様子から、これから寒くなり、重衣料を中心に需要が増え、客の購買意欲が増す。
		一般小売店［生花］（経営者）	・クリスマスは大きな需要は見込めないが、正月の予約状況は良く、売上がそこそこ上がる。しかし、花屋の特性として仕入れにはかなり慎重にならなければならない。
		百貨店（営業担当）	・客は現金も確保している様子で、実用品や趣味用品への関心が回復してきている。恒例の物産展へは連日、来場者でにぎわっており、今後に期待できる。寒さが増し、衣料品の動きも活発になっている。友の会の満会やクレジット催事があり、消費動向は良くなる。
		スーパー（売場担当）	・微増であるが客単価、来客数が増えており、景気は多少良くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・来年にはエコカー購入補助金終了の影響は薄れ、客の来店は増える。
		乗用車販売店（管理担当）	・11、12月は落ち込むが、１、２月になれば季節的要因であるが、需要はやや回復する。エコカー減税が３月までであり、１、２月に駆け込み需要、新年度新卒者向けや買換え需要もみられるため、現状よりは良くなる。
		乗用車販売店（総務担当）	・年初に新型車が投入されるため、その販売に全力を傾注する。客の新車購入意欲を喚起する施策を積極的に行う。エコカー購入補助金制度終了が客に与えたショックは薄れてくるため、良くなる。
		自動車備品販売店（従業員）	・地上放送のデジタル化が好影響を及ぼし、買換え需要が出てくる。
		住関連専門店（店長）	・消費者の話からボーナスが増加するとの話も出ており、購買意欲が伸びてくる。
		その他専門店［コーヒー豆］（経営者）	・年末を迎えるにあたって、１年を通して売上がもっとも伸びる月である。気候的にもここ数週間で急激に冷え込んだせいもあり、客のコーヒー消費量が増えている。また年末は歳暮の時期になり、ギフト商品の売上が増えるため、景気は良くなる。
		その他小売の動向を把握できる者［ショッピングセンター］（支配人）	・撤退して空いていた店舗に新たに店がオープンするため、当ショピングセンターとしてはかなり期待できる。
		高級レストラン（支配人）	・景気は悪いものの、客の様子から年末にはある程度の集客が見込める。
		音楽教室	・楽器の受注がしばらく続いているため、良くなる。
		設計事務所（所長）	・官公庁工事でもあるが、駅前再開発や市庁舎の建替等が進んでいるので良くなる。
	変わらない	商店街（代表者）	・景気が良くなるような材料が見当たらない。県内の会社が支給するボーナスは前年を下回るとの報道がされていた。佐賀市の中心街にハローワークが引越してきたが、失業者の多さを目の当りにしている。このような状況では、景気は良くならない。
		商店街（代表者）	・歳末商戦を控えているが、盛り上がりに欠け、何かイベントを行ってもなかなか客が集まらない。そういう状況のなかで、この先、状況が良くなるとは考えられない。
		一般小売店［青果］（店長）	・青果物は、夏場のような最悪の事態はないと思うが、やはり客の購買心をそそるプラス材料や政府の政策が全くない。今を維持するか横ばいで推移する。
		一般小売店［鮮魚］（店員）	・例年、年明けはなかなか売れないため、今と変わらない状況となる。
		一般小売店［茶］（販売・事務）	・寒い季節になり、売上は今以下にはならない。しかし消費者の購買意欲が戻らない限り、例年以上の売上は期待出来ない。
		百貨店（売場主任）	・消費者が安心して物を買えるような雰囲気がなく、すぐに良い方向に向かうような様子はない。
		百貨店（営業担当）	・先月以降、来客数が回復し、前年並みの売上にまで回復した。２、３か月は横ばいで推移する。更にプラスになるにはまだ時間がかかる。
		百貨店（営業担当）	・客の様子等から、やや良くなっているのは間違いない。何とかこれを継続していけば良いが、今より良くなるのは非常に難しい。

百貨店（営業担当）	・民間企業のボーナス等の情報で、明るい話題がない状況である。農家からは今後の国際情勢のなかで、日本の農業はどうなるかと非常に不安があるという話を聞き、厳しい状況が続く。
百貨店（営業担当）	・新規競合等の進出がないため、今の状況は変わらない。
百貨店（営業企画担当）	・クリスマス、年末年始、クリアランスセールと客の購買意欲が高まる月を迎えるが、必要な物だけ厳選して買うという傾向は変わらない。一品単価は上がっても、買上点数が減り、客単価は落ちる。しかし、客は買いたいという気持ちはあるので、悪くはならない。
百貨店（売場担当）	・８月くらいから来客数が前年実績を超えている。客単価も若干上がっている部門がある。婦人衣料品、特にヤング衣料の売上は前年比で約10%上がっており、全館をみても悪くなるという状況はみられない。天候要因に左右されやすいので良くなるとは言えない。NHK大河ドラマの影響による土産等の購入への影響は大きくない。
百貨店（営業企画担当）	・エコカー補助金の終了や家電エコポイントの半減等の反動あり、消費の冷え込みが予想されるため、景気の回復はみられない。
百貨店（業務担当）	・節約というより、消費者は流行やヒット商品に動かされなくなっており、消費の喚起にはしばらく時間がかかる。
スーパー（経営者）	・政治も世界情勢も不安定であるため、先行きを判断するのは難しい。不安材料が多く、安定感がなく今後の消費動向が心配される。
スーパー（店長）	・野菜の高値が続くため、冬の鍋商材の動きがどうなるかみえない。
スーパー（店長）	・エコポイント見直しの反動や年末賞与の状況、円高為替の問題等、不透明な部分が多いので、今後２、３か月について、大きな変動はない。
スーパー（総務担当）	・エコポイント見直し後の家電製品の価格競争も含めデフレ傾向は続き、売上を上げるのは商品の値下げ販売に頼るものとなる。引き続き価格へのこだわりが続く。
スーパー（経理担当）	・社会での不安要素ばかりが先行し、好転する材料がないため、今後も変わらない。
スーパー（業務担当）	・長期天候予測通りに厳寒であれば、季節商材による底上げが期待できる。しかしそれでも現在の収入ベースでは、雇用情勢の低迷や政情不安を払しょくし、消費意欲を上げるだけの力はない。
コンビニ（経営者）	・客の動きから良くなるような状況が全くみられない。
コンビニ（エリア担当）	・客の所得が増えなければ、来客数や買上点数を増やすことは難しい。来客数は全体的に減少しており、何らかの対策を打つ必要がある。
コンビニ（エリア担当・店長）	・本部の政策でおにぎりを100円、おでんを70円均一にした時には、おにぎりやおでんが売れ、ついでにもう１点を購入する客がみられる。しかし、そのセールが終わった後は元のように来客数が伸び悩む傾向にある。
衣料品専門店（店員）	・衣料品は気候にかなり左右されるが、それ以外の要因でも客の買い控えは進んでいる。欲しくても我慢する様子をみかけることが多くなったので、先行きはあまり明るくない。
衣料品専門店（総務担当）	・気候要因その他、期待したい要素はあるが、商店街全体の衰退の影響は避けられないので、全体が良くなったとしても商店街は変わらない。
衣料品専門店（取締役）	・２月は非常に厳しくなることが予想される。今年は２月までセール期間を長引かせる必要がありそうで、春物を売るには寒すぎるという厳しい時期である。高額所得者も購買をうまく春物につなげていけば、今月と同じ位の数字になるかもしれないが、客の財布のひもはとにかく固く、厳しい状況である。
乗用車販売店（販売担当）	・車の需要は低調な状況が続く。販売量、単価共に現状のまま推移する。
その他専門店［書籍］（代表）	・デフレや不況から脱却する要因が見当たらないため、今後も厳しい状況が続く。
その他専門店［ガソリンスタンド］（統括）	・冬季の賞与支給の話が客から聞こえてくるが、支給金額等が厳しい話をよく耳にする。カーケア商品の販売に期待したいが、客の傾向は毎日の生活に必要な商品を優先して消費をする傾向にあり、すぐに買換えの必要がない商品・サービスには依然、慎重な様子がうかがえる。

		その他小売の動向を把握できる者［土産卸売］（従業員）	・客の様子をみても、人にも街にも活気がなく、明るい話題がない。
		スナック（経営者）	・現在の悪い状況からの出口が全くみえず、店の維持も限界にきている。
		その他飲食［居酒屋］（店長）	・来年３月の新幹線全線開通の効果をあてにして浮ついている様子があるが、鹿児島の客が福岡に取られるのではないかと懸念される。とにかく不景気である。
		旅行代理店（従業員）	・年末年始の旅行予約は前年を上回っているものの、一時期の勢いはない。人気の場所はハワイやグアム等のリゾート地である。
		タクシー運転手	・来月、再来月は需要期であり、夜間のタクシー利用は増えるかもしれないが、最近は朝昼の動きが全くなく、客は減少している。
		タクシー運転手	・例年、年末は客が動くが、会社関係の付き合いが大変少なくなったという話を聞く。また、忘年会は、例年に比べかなり少ない。
		通信会社（管理担当）	・景気が良くなる兆しがみえない。これ以上悪くなっては困る。
		通信会社（業務担当）	・来月はスマートフォンや新商品等の話題で市場の盛り上がりが期待されるが、実際の客の反応は冷静で、厳しい状況が続く。
		テーマパーク（職員）	・クリスマス、年末年始、第４四半期の仕込みも準備しているが、追い風になる材料もなく、横ばいで推移する見込みである。
		ゴルフ場（従業員）	・入場者数は横ばい状態であるが、１人当たり単価が2,000円近く落ちている状況のなか、経費を削りながら何とか収益を黒字にしたい。プレーヤーも余計な物は買わず、プレー代の安い日に集中しており、年明けも期待できない。
		美容室（経営者）	・年末年始の景気はボーナスの支給など、お金が動く時期であるため、美容業界も今よりはやや良くなるか、変わらないくらいになる。
		美容室（店長）	・年末年始もしばらくこの状況は変わらない。成人式の着付け予約状況も前年より悪い。
		設計事務所（所長）	・今月も良くなく、ずっとこの状態が続いている。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・２、３月は商店街では１年のなかで一番悪い月であり、来年も例年同様に悪くなる。知恵を絞って売上向上のために一生懸命頑張る必要がある。
		商店街（代表者）	・例年、11、12月に需要が伸び、１月に需要が減るため、総じて変わらない。今の客の消費動向をみると、今の購買意欲が冷めていくのではないかと懸念される。
		商店街（代表者）	・売上は前年に比べ、やや落ちている。業界によって差があるが、デパート催事の売上も前年の半分となっており、良くなる要因が見当たらない。
		一般小売店［精肉］（店員）	・歳暮商戦が例年に比べて不調である。
		百貨店（企画）	・エコポイント対象商品に付与されるポイントの減少に伴う家電等の販売減が生産減につながり、製造業で雇用調整され、客の収入減に繋がる可能性があり、厳しい。
		スーパー（店長）	・家電のエコポイント対象商品に付与されるポイントが12月から半減し、消費動向はかなり鈍くなると懸念される。食料品の流れは前年比111％と推移しており、この流れは変わらない。現在、歳暮関連のギフトは最大特典で販売しているが、年末は厳しくなることが懸念される。夏ギフトも早期割引特典をしていたが、やはり途中から厳しい状況になった。
		スーパー（店長）	・歳暮ギフト商戦がスタートしているが、買上点数は変わらず、単価が更に下がっている。いよいよクリスマス、年末年始の時期に入るが、客の購買傾向はあまり変わらない。また、家電のエコポイント対象商品のポイント半減の反動減の影響で景気は悪くなっていく。
		スーパー（店長）	・業界の価格競争がとどまるところを知らない。特売品が売上に占める割合が大きくなり続けている。
		家電量販店（店員）	・今月末でエコポイント対象の家電に付与されるポイントがほぼ半減するため、駆け込み需要が非常にあった。特に薄型テレビは前年比600％を超える勢いで、売上が非常に伸びた。ただ来月、再来月は非常に難しくなる。薄型テレビの需要が低下するため、本音では、今のうちに売っておきたい。これからどうなるか全く見えない。

		家電量販店（総務担当）	・エコカー購入補助金制度終了の反動減と同じ状況となることが予想される。
		住関連専門店（経営者）	・景気は低迷しており、地元の同業者は店じまいセールを行っている。今月中に廃業の予定であり、厳しい状況が続く。
		高級レストラン（経営者）	・来月の予約状況をみると、忙しい日がかたまっており、それ以外の日の入りが悪い。忘年会のシーズンは今月と同水準で推移するが、クリスマスの週が終わったら、ほとんど予約が入っていない。少人数で予約が入ってきてはいるが、前年と比べて悪い。一昨年と比べると更に厳しい。前年と同じぐらいで推移すれば良いという状況である。
		高級レストラン（社長）	・NHK大河ドラマが終わったため、その反動で来客の減少が懸念される。
		観光ホテル（総務担当）	・予約状況から１、２月は今のところかなり厳しい。しかし、３月には九州新幹線の全線開業があり、気運が上がることに期待している。
		都市型ホテル（副支配人）	・例年年明けにある受験生による予約、あるいは学校関係の予約等が非常に減っている。インターネット予約が増えており、直前にならないと良くなるか悪くなるか分からない。
		タクシー運転手	・消費者の財布のひもは固く、今後良くなるような見込みが見当たらないので厳しい。
		通信会社（総務担当）	・現状のまま推移していけば、身の回りの景気は悪くなると予想される。当県の大型店の売上高は、前年比マイナスで推移している。また、有効求人倍率は低調に推移しており、雇用状況の悪化とともに、所得の伸びがみられない。今後の景気については不安を覚えるばかりである。
		ゴルフ場（支配人）	・デフレ傾向は変わらず消費マインドは停滞したままであるため、冬期シーズンに向けて来客数は減少していく。また12月から１月にかけて強い寒気団の停滞が予報されており、客足は更に鈍る。
		理容室（経営者）	・１、２月は１年間でもっとも来客数が少ない月になる。今年も例年通り悪くなる。
		美容室（経営者）	・例年11月の終わりは客が多いが、今年は客が来ない。このまま今の状況が続けば経費もかかるので店の経営が困難になる店が増える。
		その他サービスの動向を把握できる者［介護サービス］（管理担当）	・冬季はインフルエンザや風邪等の病気による入院等で、介護サービス利用のキャンセルが多発し、利用客数は伸び悩むことが想定される。
		住宅販売会社（従業員）	・景気は非常に低迷しており、良い業界と悪い業界に差がある。生活に直結した景気対策がないと景気はますます悪くなる。
	悪くなる	スーパー（店長）	・夏以降急速に進んだ円高が今後も続けば、輸出産業の業績悪化につながり、個人消費は一段と冷え込みかねない。需要不足から食品などの店頭価格の下落が続く可能性もある。
		スーパー（総務担当）	・韓国情勢の今後の懸念や為替の悪化懸念から、国内需要の進展は望めず企業収益悪化が避けられない。
		衣料品専門店（店長）	・客の購買意欲が全くみられない。12月当初から商店街で売り出しが企画されているが、売上の上昇にはつながらないと予想される。
		衣料品専門店（店長）	・ここしばらくは景気が上向きになることは考えられず、給料が良くなるということも考えられない。景気が悪い状態が続く。
		家電量販店（店員）	・エコポイント対象の家電に付与されるエコポイントが半減することによる前倒し需要があり、エコポイントが終了すると売上は落ち込む。
企業動向関連	良くなる	－	－
	やや良くなる	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・今年度の補正予算が確定した時点で自治体向けの導入が多少なりとも見込めるため、やや良くなる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・引き合いの量が若干増えている。また、半導体では展示会用の仕事が増えている。
		精密機械器具製造業（従業員）	・来年は装置を導入して量産計画をしており、やや良くなる。
		金融業（営業）	・大手製造業の生産拠点の海外移転は４月以降に具体化する可能性が高く、下請企業は先行きに不安を持っている。しかし、３月までは受注が入っており、年末の資金手当を懸念する企業は少ない。

		不動産業	・依然として高額の物件が動いていない。購入を検討して来店する客の条件は厳しいものが多いが、問い合わせ件数は増加している。
		広告代理店（従業員）	・９～11月の売上が３か月連続で前年を上回っており、景気はやや良くなる。
	変わらない	農林水産業（経営者）	・12月は年末の特需があるためにかなり期待できる。ただし１、２月は円高による輸入品が増え、不需要期であるため消費不振等も懸念され、あまり期待できない。１、２月は原料発生も多いため、在庫負担が多くなる。
		食料品製造業（経営者）	・売上増加の材料に乏しく、インフルエンザの流行なとが懸念され、当分現状のまま推移する。
		家具製造業（従業員）	・オフィス家具の需要期である２、３月の予測も芳しくない。仕分けに代表される予算削減が浸透しており、官公庁の年度末需要も全く期待できない状況である。ただ民間の商業施設はやや持ち直して来ているが工事価格そのものがリーマンショック以前の２～３割の低下が当たり前の状況で、下請けの予算はなくなってしまっている。
		鉄鋼業（経営者）	・このところ、新設住宅着工戸数や着工床面積は前年同月比でプラスが続き改善の兆しがみられるが、受注量や販売価格は低迷したままであり、製造業は改善している実感がない。前年度が極端に少なかったためプラスとなっているのであろうが、企業の設備投資による新規建築物件がほとんど見受けられず、景気回復にはほど遠い。
		金属製品製造業（企画担当）	・朝鮮半島の武力衝突事件等先行き不安感はあるものの、株価は１万円台を回復し、為替も83円前後で推移しており、当面、現在の小康状態が続いていく。
		一般機械器具製造業（経営者）	・仕事があっても、単価が厳しいものが多い。それでもしないことには受注する仕事がない。リーマンショック以降仕事の絶対量が回復しない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・半導体関連の動向は一進一退で、先行きに関しては先が読めない状況が続いている。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・内示数量や予想計画に変化はない。
		輸送業（総務）	・身の回りに景気の良い話が見当たらない。車や家電の景気対策が終了し、その反動減が考えられ、景気回復は望めない。
		輸送業（総務担当）	・預かっている荷物の荷動きに変化はない。倉庫について問い合わせがあっても、コストダウンのための集約依頼や安い業者選択のための問い合わせである。あまり契約に結びつくことはない。
		通信業（職員）	・平成22年度予算の情報通信関連官庁工事が年度末まであるため、良好な状態が継続する。
		金融業（営業担当）	・年末、年度末にかけ中小企業の資金需要はあるものの、資金使途は、先行きの不安から手元資金を確保のための借入であり、前向きな資金需要はほとんど見受けられない。
		金融業（得意先担当）	・取引先を訪問するなかで代表者との会話、ヒヤリングを通して感じるのは、当面現状の状況が続くのではないかということである。金融機関としても真の意味での資金需要が生まれない限りは現状のような金融機関同士の肩代わり等による貸金の獲得といった状況がしばらく続く。
		不動産業（従業員）	・商業施設の来場が横ばいに推移している。
		広告代理店（従業員）	・今月の新聞折込枚数は前年比96％と低調であった。パチンコ娯楽の受注枚数が先月比90％と悪化したのが影響した。新聞折込の根幹をなす流通や小売関連の受注枚数も低下したまま横ばいの状態が続いている。求人関連のチラシはやや持ち直しており、前年を上回っている。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・極端に悪くなる兆候はないが、良くなる材料も見当たらない。
	やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・今期は原料不足が見込めるため、原料価格高騰による収益の悪化や新規客の開拓ができない等の状況が考えられる。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・新年に向けての新製品の動向がみえない状態で苦慮している。
		電気機械器具製造業（経営者）	・３か月先は仕事の単価が下がるため、11月比で30～40％減る。同業他社との価格競争が激化し、12月は極端に仕事量が減り、大変厳しい状況が続く。１、２月も良くなることはない。
		建設業（従業員）	・引き合いは、今のところ増加傾向であるが、受注競争の激化に伴い、利益の確保が非常に難しくなっている。また、個人消費の低迷が見受けられ、景気はまだまだ悪くなる。

		建設業（社員）	・現在の手持ち工事が完了すれば、２、３か月後の発注物件が少なくなり、受注物件が減少する。補正予算を期待せずにはいられない状況である。早い時期での繰越工事の発注に期待をするしかない状況だ。
		輸送業（従業員）	・景気が良くなるような要素は今のところ全く見当たらない。
		金融業（調査担当）	・円高トレンド、公共工事の減少等、取引先が口にする景気悪化の材料が上向きとなる材料を上回っている。今後の景気はマインド先行でやや悪化する。
		金融業（営業職渉外係）	・家電エコポイントの見直しによる消費意欲減退により、景気悪化が懸念される。
		経営コンサルタント	・例年、年末年始にかけて、新しい契約はほとんど発生しない。今年も同様の傾向にある。
		その他サービス業［物品リース］（従業員）	・円高、株価低迷また景気対策の終了等により、経営者心理は慎重さを増してきており、リースするのは必要最低限及び絶対不可欠な設備補充等へ変化してきている。
	悪くなる	農林水産業（従業者）	・畜産物の原料である飼料価格が非常に高騰する見込みである。特にとうもろこしや麦の上昇により、円高では吸収しきれない上昇ありで、１月からは非常に厳しい状況になる。
		その他サービス業［設計事務所］（代表取締役）	・市町村が緊急雇用を含んだ業務を発注するようになってきたが、受注金額の半分は、失業者の賃金等にあてなくてはならない。これを入札で業者に競わせるため、実際の半額しか売上にならない。このため利益が出ない業務となっている。制度が廃止された場合、業務がなくなる恐れがある。
雇用関連	良くなる	－	－
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・例年でも下半期は来期に向けての人員配置が活発化するが、今期は先期から抑えていた分だけ今後の需要がある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・ここ数か月掲げているが、新駅ビルリニューアルオープンを控え、求人の需要が高まっている。核テナントを中心に5,000～6,000人ともいわれる雇用が創出され、周辺企業の人材が吸収されるために、二次的に求人活動が活発になってくる。
		新聞社［求人広告］	・求人は上向きにはならないが、下げ傾向は緩やかになりつつある。
		新聞社［求人広告］（担当者）	・来年春の九州新幹線全線開業により、人も物も動くことが期待されるが、新たな雇用創出につながるかは不透明である。
		新聞社［求人広告］（担当者）	・やはり九州新幹線開業の雇用への影響は大きい。また年度末でもあり、企業の動きも活発になる。ただ大卒等の新卒求人の厳しさは残っており、長い目でみると景気回復の実感はまだ遠い。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・年度末へ向けての状況を確認するが、大きな期待が見込めない企業が多い。退職者の後任は、業務の見直しをし、短時間要員で対応するなど、雇用するにしても厳しい動きとなる。
		人材派遣会社（社員）	・労働者派遣法改正の動きが不透明であることや派遣業務についての適正化が進んでおり、派遣利用を考える企業が手控えをしている状況である。
		職業安定所（所長）	・先月と同様、求人の増加に比べて新規求職者が減少傾向とならず、ミスマッチが生じており、当分は足踏み状態が続く。
		職業安定所（職員）	・家電エコポイントの見直しや円高等により、個人消費や輸出型企業の活動の鈍化が懸念される。また大企業の解雇発生が懸念されており、先行きは不透明である。
		職業安定所（職員）	・新規求人数、有効求人数共に緩やかながらも改善傾向を示しているが、緊急経済対策の効果や円高の影響等について不透明感等もあり、しばらくの間は現状と大きな変化はみられない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数をみると改善の兆しはあるものの、製造業への円高の影響等から先行きは依然不透明である。
		職業安定所（職員）	・輸出型企業で円高により海外との受注競争で受注が取れないという状況があり、その下請けを含め厳しい状況が続いている。この状況は当面続く。
		学校［大学］（就職担当者）	・平成23年３月卒業予定者に対する求人は、更に縮小していくことが予想される。反面、平成24年３月卒業予定者に対する求人は拡大していくと予想される。ただし、採用意欲の拡大が見込まれるか否かは、不明である。また、厳選採用傾向は続いていく。
	やや悪くなる	○	○

	悪くなる	民間職業紹介機関（社員）	・労働者派遣法改正の行方が不透明のなかで、企業は派遣利用を手控える傾向がある。
		民間職業紹介機関（支店長）	・派遣労働者を採用する企業が減少し続けている。企業はコストメリットよりも法規制による使いにくさ、不自由さが大きいと感じている。